

---

## 口頭研究発表 3 / -Oral Presentation3-

---

### 湿地保全における環境教育の意義と効果的連携に向けた課題 —コウノトリ生息地保全水田ビオトープ維持管理を事例に—

田開寛太郎

(東京農工大学大学院 連合農学研究科 農林共生社会科学専攻 博士課程 1年)

#### <はじめに>

兵庫県豊岡市では、大型鳥類コウノトリの野生復帰事業が展開される。本田(2008)は、行政によるトップダウン的な野生生物保護による住民の生活負担を「強いられた共生」と表現し、共生関係生成の実態を把握することで住民がいかにコウノトリを“受け入れるか”を検証した。一方、地域のシンボリックな存在であるコウノトリを、いかに「地域のもの」へと住民の意識を高揚させられるかが、コウノトリ生息地保全及び湿地保全における課題である。その意味では、コウノトリ生息地保全のための技術的工夫、及び、環境意識の変容を目指した環境教育の進展が重要である。

そこで本研究は、豊岡市を事例に、コウノトリ生息地保全のための水田ビオトープ維持管理活動に焦点を当て、地域住民、行政と学校等が連携し、コウノトリと共生する地域づくりを目指した総合的な「学びの場」が果たす意義と役割を、構造的に提示することを目的とする。ここでは、行政主導による経済的措置の現状や、コウノトリ生息地保全の課題を踏まえ、湿地保全における効果的連携を持続させるための条件について議論したい。

#### <方法>

豊岡市は、対象水田を選定し、コウノトリ生息地保全のための水田ビオトープ維持管理を当該水田所有者(耕作者)に委託し、加えて、地域の生物多様性の向上・保全に資するとともに地域住民の生きものとの共生意識の醸成を図る。研究方法は、委託先である水田所有者(耕作者)24件を対象に、聞き取り調査を行う。内容は、維持管理の体制や取組理由など基本的な情報や、維持管理における課題や継続するための条件などである。記録した聞き取り調査の内容は、研究データとして分類、整理する。

また、当該ビオトープを活用した生きもの調査授業(小学3年生)を実施した学校及び担当教員を対象に聞き取り調査を行い、総合的な「学びの場」のあり方に関して考察を深化させる。

#### <さいごに>

コウノトリの野生復帰に向け試験放鳥を行う千葉県野田市や福井県越前市などの事例があるように、今後ますますコウノトリが生息できる環境の創出に向けた人間社会システムの構築が求められるだろう。環境保全や連携の実態を探るだけでなく、コウノトリと共生する社会づくりに有効な方法論やモデルの創発までに踏み込み、本研究を継続していきたい。